

# 令和5年度 鳥取市熱中症予防対策の推進に係るモデル事業

## 本市の課題

- 鳥取県の人口10万人当たりの熱中症の搬送者数は、2022年8月は全国平均16.05人に対し、**最多の31.62人**であった。
- 熱中症搬送者数の半数が**高齢者、特に住居内による発症が多い。**
- コロナ禍でクールシェルターの取組が休止、交流の再開にあたって関係機関との連携や新たなPRが必要。

## これまでの取組

- 各部署における熱中症予防対策の取組
  - ・熱中症警戒アラート発表時関係機関、関係施設（住民）、公式LINEや防災無線による熱中症予防の注意喚起
- チラシ、ポスター、市報、ラジオCM等による啓発
- 高齢者世帯へ訪問時熱中症予防の注意喚起を行う
- MAPによるクールシェルターの紹介



取組の更新

## ■独居高齢者の屋内における熱中症対策

- 室内での熱中症リスクを認識し、リスク低減の行動につなげる
  - ①温湿度計とアンケートの活用
  - 温湿度計とアンケートの組合せでリスクを再認識
  - ②7日間アンケートの活用で毎日の習慣付けによる行動変容
- 民生委員等の訪問（声かけ）による注意喚起
  - ①民生委員や市保健師等の訪問により、独居の方のリスク把握
  - ②直接的な声掛けによる注意喚起

## ■クールシェルター取組強化

- 新規クールシェルター施設募集
- 新ステッカーの配付
- 利用を促すサービス等記載

### 取組拡大

参加事業者の掘り起こし

### 情報発信

市報・ラジオ  
市LINE等

継続

交流再開に  
合わせ  
取組拡大

## ■熱中症予防対策啓発動画の作成

高齢者向け・一般の方向けの動画を作成  
→セミナーや高齢者のサロン、観光施設等で活用

## 継続に向けた展開

- クールシェルターの取組強化  
参加事業者の再募集による事業者との連携、新たな取組の検討  
観光関係施設等、庁内連携の再構築

- 高齢者の屋内における熱中症対策  
アンケート結果の検証による  
民生委員等高齢者支援団体との連携、取組の検討

